

平成28年度 学校評価総括表 伊丹市立池尻小学校

教育目標		『すべての子どもを幸せに』～豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成～						
重点目標		(1)生涯学習の基礎となる確かな学力を育てる。(2)感性豊かで思いやりのある児童を育てる。(3)たくましく生きるための健康と体力を育てる。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な知識技能を習得させる。 ・授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や計算などの小テストを実施する。 ・ふり返り等で理解を確認しながら授業を進める。 ・校内研修として、すべての教員が年1回以上授業公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを月4回以上行う。 ・すべての教員が年1回以上授業を公開する。 ・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答が90%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答が90%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストをほぼ月4回以上行い、習得の確認ができた。 ・すべての教員が年1回以上授業を公開し、事後研でさらに深めることができた。 ・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答では、Aが78%、Bが20%で、合計98%になった。 ・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答では、Aが61%、Bが34%で、合計95%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もさらに授業力の向上と授業改善を目指し、教材研究をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書き計算等の基礎学力の定着を図るため上で、小テストを月4回以上行う教育を池尻小学校の教育文化として今後も続けていくようにする。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業をすることにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。 ・読書活動を充実させ、自ら学び探求する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や課題を最後までやりきらせるよう支援する。 ・全校一斉の朝読書の時間を週3回実施する。 ・読書貯金カードを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出率が90%以上になる。 ・1人1か月低学年20冊・高学年5冊以上の読書数を達成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出は、各クラスのほぼ決まった児童が未提出となっている。全体としては、90%以上達成している。 ・朝読書の習慣が定着してきており、静かにじっくり読書ができるようになってきている。 ・もう1冊借りられる券がもらえるということで、意欲的に本を読む児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題がなかなか提出できない児童については、家庭に協力をお願いしたり、学校で可能な限りやりきらせる。 ・生活・学習ふり返りカードで、家庭学習の習慣をつけていく。 ・図書時間に本を借りたり、朝読書をする時間を確保したりする。 ・学習の合間を利用して本を読む習慣をつける。 ・学習の定着度が悪い児童への、放課後学習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記や要点のまとめ、感想文を書かせるなど、授業の中で書かせる作業を行う。 ・読書好きを育てる工夫が必要である。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援計画を立て適切に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議を随時、校内委員会を月1回行いニーズに応じて組織的な支援体制を構築する。 ・校内研修を年に2回以上行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から学年会等で児童の実態について情報交換し、ケース会議で話し合うべき事例をあげることができた。ケース会議や校内委員会を月1回行い、実態把握と今後の対応について話し合うことができた。コンサルテーションや教育相談等も必要に応じて活用し、SCやSSWとも連携して取り組んだ。 ・校内研修を年度始めと年度末の2回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからもさらに深く児童を理解し、実態に即した対応や支援に努める。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりについて共通理解し、困り感を持っている児童への適切な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの児童に応じたきめ細やかな支援を行う。 ・特別な支援が必要な児童の増加に対応した、人的配置、サポートの工夫が必要。 ・校内委員会を月1回行い、教師が情報を共有できるように、来年も継続した取り組みを行う。
子どもの問題行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動に対する指導体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を理解し、指導の徹底を図る。 ・関係機関と密に連絡を取り相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を年に2回以上行う。 ・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が85%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から学年会などで児童の実態について情報交換し、児童の理解と指導の徹底を図った。問題行動について学年と生活指導が一体となり、対応できた。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答では、Aが68%、Bが27%で合計95%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも児童の実態把握に努め、きめ細かく対応していく。 ・保護者や地域と連携をとりながら、子どもを共に育てていく。 ・不登校傾向の児童について組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや非行行為に対しては、早期発見、早期対応し、早期に解決するように取り組む。 ・地域や関係機関とも連携して対応する。 ・悪いことを慎む心の育成が大切である。 ・保護者への協力やコミュニケーションの取れる関係作りを推進し、理解を得るよう努める。 ・不登校への対応にSSWやカウンセラーと連携を密にする。また、教員に対する支援ができる体制を整える。 	

豊かな心・健やかな体	健康教育の充実	・児童の体力の向上を図る。	・授業で、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。 ・全校業間縄跳び大会を実施する。 ・各学年に応じた運動プログラムをより具体的で簡単な内容にし、研修等で紹介し合う。	・教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が90%以上になる。 ・全校業間縄跳び大会を年2回実施する。	A	・「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が100%となった。 ・全校業間縄跳び大会を年2回実施し、長縄記録を伸ばそうと、運動場で業間休みに練習する姿が見られた。 ・学年が上がるに連れて、休み時間に外遊びをする児童が減っている。	・年間通して業間休みに外で活動できるような運動や遊びを体育や学活等の時間に紹介する。 ・ロードレース・陸上大会・いたっボール・すもう大会などへの参加を促し、練習を重ね大会で結果を出すことで、運動への意欲づけを講じる。	・生涯体育の観点からの健康教育を行い、運動が好きで将来にわたり健康を大切にすることを育てる。 ・上体起こしの数値が良く、長座体前屈の数値が悪いアンバランスの解消に努める。
	健全な食生活の推進	・食生活に関心を持ち、健康に生活しようとする児童を育成する。	・食育を給食の時間や授業において推進する。	・児童アンケートにおいて「毎朝朝食を食べている」との回答が90%以上になる。 ・給食の残食がなるべくゼロになるようにする。	A	・児童アンケートにおいて、「毎朝朝食を食べている」との回答では、Aが84%、Bが10%で合計94%となった。 ・食べ物が自分の健康につながっていることを意識し、栄養バランスに気をつけて給食を残さず食べようとする児童が増えた。 ・栄養教諭とも連携して、食育を推	・栄養教諭とも連携し、給食の時間に、給食センターからのプリントや学校放送を利用したり、授業で食事や栄養について取り扱ったりし、より食に対する関心を深めていく。 ・クラス全体で残食0を目指していく。	・家庭の協力を得ながら朝食や、夕食の食生活の充実を推進する。 ・食と健康に対する児童の意識向上を図る。
開かれ信頼される学校園	学校情報の発信	積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 ・マナーや生活のきまりを学校だよりに月目標として掲載する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・ホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに込めている」との回答が90%以上になる	A	・学校だよりは月2回以上発行した。 ・ホームページで学校の様子を毎日知らせることができた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答では、Aが50%、Bが49%で合計99%となった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、保護者の願いに込めている」との回答では、Aが38%、Bが56%で合計94%となった。	・これからも積極的に学校の情報を発信していく。 ・学年便り等で生活振り返り習慣の実態を公表したり良い取り組みや課題を紹介したりして、家庭でも工夫改善策が講じられるようにする。	今後とも、HP、学校だより、学級通信等による情報発信を充実させ、学校での指導内容や、学校の努力している事が見える、オープンな学校にする。 ・成果だけではなく、教育活動の過程を伝えていくことも大切である。

学校関係者評価総括

- ・小テストを月4回以上行うことで、基礎学力の定着を図ることができた。
- ・校内委員会を月1回行うことで、教師が情報の共有が図られた。
- ・ホームページや学校だよりの地域への配信により、保護者や地域へ、積極的な発信ができた。
- ・読書好きを育てる工夫、特別な支援が必要な児童の増加に対応した、人的配置、サポートの工夫が必要。

次年度に向けた重点的な改善点

生活振り返り習慣の実態を保護者に伝えるなど情報発信と啓発により、学習習慣や生活習慣を整える。
家庭との連携と組織的な対応により不登校児童の減少に努める。
学力の向上を目指し、読書習慣の定着とユニバーサルデザインの授業づくりに組織的に取り組む。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った